

特集 若手技術者交流会（平成 28 年度）

若手技術者・研究者の人材育成ニーズの高まり

交流推進委員会 委員長
鈴木 康嗣



現在、企業の技術開発力が重要課題として挙がっています。その中で、将来を嘱望される若手技術者・研究者の人材育成のニーズが高まっています。建築研究開発コンソーシアム（CBRD）では、「若手技術者を育成する場が欲しい」との会員各位からのニーズにお応えして、平成 21 年度（2009 年度）より毎年、若手技術者交流会を開催しています。この交流会の目的は、CBRD というプラットフォームを用いて、多様な若手技術者・知識集団が集まり、「①施設見学や体験を通じて、新たな気付きを誘発する。②お互いの知識・知見の交換から、異なる視点と幅広い知識を習得する。③得られた情報を基に、研究活動の知的創造性を活性化させる。」ための「場」と「機会」を提供することにあります。

毎年、多くの参加者から、「良い経験となった」「知見が広がった」「若手のネットワークが出来た」というような好意見を頂いております。

若手技術者交流会は、CBRD 正会員の若手技術者を対象としますが、年齢は問いません。毎年 20 名程度募集しています。開催期間は概ね 9 月～1 月で、毎月 1 回、計 5 回開催されます。関東地区での開催は毎回 3 時間程度（14 時頃～17 時頃）で、研究所・実験施設・PR 施設・工場等の見学と、2 グループに分かれて若手の自主性に任せた討議・意見交換を実施します。また、終了後に毎回懇親会を開催します。この懇親会が、若手同士の交流を深めるために特に重要です。また、関西地区においても交流会を 1 回開催しますが、複数施設を見学するため、1 泊 2 日を予定しています。

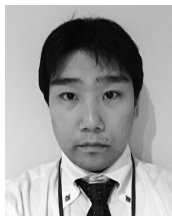
2017 年度は、6 月ごろに募集要項を送付し、7 月ごろに募集を締め切る予定です。参加者同士の交流を深めるのが目的ですので、出来るだけ毎回参加して頂ける方をご推薦下さいますよう、よろしくお願い致します。

2016 年度 若手技術者交流会 実施スケジュール

時 期	場 所	内 容
第 1 回 （H28） 9 月 9 日（金）	CBRD フォーラム室 （晴海トリトンスクエア Z 棟 4 階）	15 時 30 分～17 時 オリエンテーション 参加者の自己紹介 今後の討議内容に関する意見交換 17～18 時 懇親会（トリトンスクエア X 棟 5 階「TX-café」）
第 2 回 10 月 21 日（金）	大成建設(株) 技術センター （横浜市戸塚区）	14～17 時 施設見学 及び 討議・意見交換 17～18 時 懇親会（自由参加）
第 3 回 11 月 17 日（木） ～18 日（金）	関西地区での交流会 （複数施設を見学）	1 日目 PM 施設見学〔パナホーム(株)本社工場他・東近江市〕、 及び 討議・意見交換 懇親会（自由参加） 2 日目 AM 施設見学 〔大和ハウス工業(株)総合技術研究所・奈良市〕、昼食 PM 施設見学〔大阪ガス(株)岩崎地区スマートエネルギー ネットワーク及びハグミュージアム・大阪市西区〕
第 4 回 12 月 16 日（金）	東京セキスイハイム工業(株) 武蔵工場（蓮田市）	14～17 時 施設見学 及び 討議・意見交換 17～18 時 懇親会（自由参加）
第 5 回 （H29） 1 月 20 日（金）	（一財）建材試験センター 中央試験所（草加市）	14～17 時 施設見学 及び 討議・意見交換 17～18 時 懇親会（自由参加）

若手技術者交流会に参加して

パナホーム株式会社 佐原 智彌



今年度で8回目を迎える「若手技術者交流会」に、当社から初めて参加しました。同業種・異業種の方たちと交流できる貴重な体験をさせていただきました。

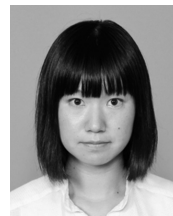
今回の交流会では全5回にわたり、参加企業の見学、意見交換会、及び懇親会を行いました。私としては特に意見交換会に参加できて良かったと感じています。

意見交換会は、毎回テーマを決めてグループ討議を行いました。若手技術者として今の建築業界に思うことから直近の仕事の悩みまで、各テーマに関して各社それぞれの内情を交えながら本音で話し合うことができ、メンバーの建築や仕事に向きあう「姿勢」にとても良い刺激をもらいました。特にIoTやAI技術など、普段あまりなじみのない分野の内容をどうやって自分の仕事に取り込めるか議論をする中で、「普段もこのような姿勢で自らの仕事に臨めているか」と改めて反省しました。

本交流会を通じて本音で話して刺激し合える貴重なつながりができました。メンバーとの交流は今後も継続していきたいです。このような場を提供いただいたコンソーシアム並びに参加者の皆様に感謝致します。

若手技術者交流会に参加して

大阪ガス株式会社 高橋 由佳



第8回若手技術者交流会に参加させていただきました。この若手技術者交流会は、様々な業種の技術者が、施設の見学や意見交換の場を通じて、新たな気づきや知見を広げることが目的の会です。今回予定されていた施設も普段は行く機会がない施設であったことや、様々な業種の方々と肩肘張らずに交流ができるということを知り、参加を決めました。

私は関西からの参加でしたが、会の開催が午後からということで、東京の開催場所でも無理なく参加することができました。また、今回は21名中6名が女性技術者ということで、女性技術者ならではの課題なども話すことができ、とても参考になりました。関西での見学会においては、当社施設見学を取りまとめをさせていただきましたが、参加者の方々に当社の取り組みを知って頂いたので、とてもよい機会を頂いたと感じております。普段の業務では見る機会のない他社様の施設等を見学させていただきました。また、意見交換会では仕事上の関係では聞けないことも聞くことができましたし、懇親会では交流を深めることで今後のネットワークを作ることができました。このような有意義な会に参加して良かったと感じております。最後になりますが、建築研究開発コンソーシアム事務局のみなさま、参加者の皆様、参加をさせて頂き本当に有難うございました。

平成 28 年度 若手技術者交流会のスナップ



初回オリエンテーション



施設見学



施設見学



グループ討議



施設見学



懇親会



平成二十八年度参加者および
担当委員各位



グループ討議

【1】コンソ・プラザ

先端分野の動向等会員にとって興味ある有益なテーマ、トピックに関する情報の共有や交換の場を設け、会員の交流を促進し研究会の発足等に繋げることを狙いとして開催した。イベントの開催頻度を平準化すると共に、2ヶ月前に募集を開始し多くの方に参加頂いた。

①一般講演会

会員への情報提供の一環として、タイムリーなテーマと講師を選定し4回開催した。具体的には、「住生活基本計画について」、「3D プリンタでしかつくりえないかたち」の探求、「虎ノ門周辺の都市再生に向けたまちづくりと UR 都市機構の取組み」、及び「IoT と建築について」の4回であり、参加者は延べ133名であった。

②建築研究所による講演会

国立研究開発法人建築研究所の建築研究報告等の講演会を報告書等の発表に合わせて4回開催した。具体的には、「煉瓦と煉瓦造のはなし」、「2016年に発生した熊本地震における鉄筋コンクリート造建築物の被害概要と今後の検討課題」、「CLT パネル工法の研究開発と事例紹介」、及び「都市の環境向上に資する緑化便益の増進方策」の4回であり、参加者は延べ113名であった。

③見学会

話題性のある施設を選定し4回開催した。具体的には、「国立研究開発法人建築研究所」、「UR 都市機構技術管理分室(旧・技術研究所)」、「JAXA(宇宙航空研究開発機構)筑波宇宙センター」、及び「E-ディフェンス」の4回であり、参加者は延べ73名であった。



【2】研究開発人材育成プログラム

平成28年度は平成27年度同様、「研究開発人材育成プログラム」の5日間コースを2回、31名の受講者の参加により実施した。プログラムの内容は、先輩研究者による講義「私の研究開発履歴書」、村上会長特別講義、国のビジョン、MOTの紹介及びマーケティング(行動観察)の講義とグループワーク等を行なった。いずれも受講者の評価が高く、好評であった。

また、平成27年度に続き、5日間コース参加が難しい会員のために、同コースのプログラムで関心の高いMOTをテーマに、MOT 半日コースを32名の受講者の参加により実施し、受講者の評価も高く、好評であった。



【3】若手技術者交流会

若手技術者交流会は、対外的な活動の機会が少ない若手技術者のために、異分野の研究仲間や情報源を提供することで、

研究活動の知的創造を活性化することを狙いとしている。平成28年度(第8回)は21名の参加があり5会場で開催した。活動は2チーム制として、各回にチームリーダー他を選定し、施設見学とフリーディスカッションを通じて交流を図った。また、関西の会員の要望により関西地区(滋賀県・奈良県・大阪府)においても開催(1泊2日)し、交流の成果が大いに上がった。

【4】コラボレーション・ミーティング

研究会活動への展開の推進、企業の研究開発に対する支援として、会員企業が現在進めている研究開発の現状及び将来の課題について他の会員企業との間で意見交換するコラボレーション・ミーティングを、国立研究開発法人建築研究所のリードの下、平成28年度は、構造技術分野で2回実施した。研究会移行準備中である。



【5】研究会

研究会については、継続13テーマに新規10テーマを加えた計23テーマを実施した。新規テーマの内5テーマがアイデアコンペから成立した研究会、2テーマがコラボレーション・ミーティングから成立した研究会、他の3テーマが会員からの提案で成立した研究会であり、その成立過程や研究内容が多岐に渡り、研究活動が活性化した。

【6】研究助成制度

研究助成制度は、研究推進活動の一環として、社会的ニーズに対応した会員間の研究の一層の推進を図ることを目的に、「地震被害を受けた設備機器とその地震後の継続使用性との関係に関する研究」、「一般人と専門家の建築構造・防災に関する認識の違いの把握に関する研究」、「高齢者の生活と住まいのデザイン」、「建築分野における火山対策に関する調査・研究」、「外皮での微細藻類培養に関する研究」、及び「活性水等による建物内外装材表面の汚染除去効果等に関する実験的研究」の6件を採択し合計で約2百万円の助成を行った。

【7】JIS 原案作成対応

①建築内装用サンドイッチパネルの中規模火災試験方法(制定)

積層複合材料を用いた建築内部空間の火災安全性研究会及び株式会社三菱総合研究所から受託研究開発の研究成果を受け、平成27年8月3日付で、新規JISの原案として一般社団法人日本規格協会の公募制度に応募し採択された「建築内装用サンドイッチパネルの中規模火災試験方法」について、JIS原案作成委員会を設け、国立研究開発法人建築研究所の協力の下、平成28年7月に最終JIS原案を提出した。

②建築ファサードの燃えひろがり試験方法(改正)

平成27年1月に「JISA1310-2015: 建築ファサードの燃えひろがり試験方法」が制定されたが、より実用的な内容にするため、継続研究として「建築ファサードの燃えひろがり抑制に係る評価基準案および技術開発に関する研究会」で実験及び検討を行った。研究成果として、加熱強度に関する明確な指針等が確立できたことから既存JIS本文の改正として平成28年11月に日本規格協会の公募制度に応募した。

功 勞 賞 授 賞 式

平成 27 年度に表彰制度規程を作成し、表彰制度規程に基づき、コンソーシアムの委員会活動にご尽力されるとともに、コンソーシアムの活性化に多大なご貢献をされた個人の中から功労者を選出し、連絡担当者会議の場で表彰する

ことになりました。

平成 28 年度の表彰者は下記 3 名の皆様で、3 月 8 日のコンソーシアム連絡担当者会議の場で表彰されました。



井川 望様
元 (株)鴻池組



栗原 潤一様
(株)ミサワホーム総合研究所



古海 賢二様
大和ハウス工業(株)



2016 年度 建築・住宅技術 アイデアコンペ (第 14 回)

2016 年度のアイデアコンペは、12 件の応募があり、平成 29 年 1 月 27 日の 1 次審査会(査読結果審議他)及び同 2 月 24 日の 2 次審査会(ヒアリング他)を経て、最優秀賞 1 件、優秀賞 1 件、審査員特別賞 3 件、佳作 2 件が選定されました。

【最優秀賞】

- ・次世代型安全管理システム
麻田 鷹司、他 3 名(新菱冷熱工業(株))

【優 秀 賞】

- ・建設現場における作業員装着型パワーアシスト・パワーローダーの活用と安全性に関する研究
宮口 幹太、他 3 名(株)竹中工務店

【審査員特別賞】

- ・人工知能と AR 技術を利用したタブレットアプリによる一般利用者参加型 - 生物情報収集システム
青木 貴均(株)安藤・間
- ・技能工支援ロボットとプラットフォーム(夜間、昼休みに軽作業を代替するシステム)
綿谷 聡、他 6 名(三井住友建設(株))
- ・ユニバーサルな建設現場を実現するための研究
妹尾 悠貴、他 3 名(鹿島建設(株))

【佳 作】

- ・住宅内における生活支援ロボットに関するリスク抽出と安全基準の検討
小池 昭久、他 2 名(大和ハウス工業(株))
- ・着せ替えが可能な高意匠・高耐久性外装材に関する研究会
和田 環(鹿島建設(株))



新 会 員 の 紹 介

正 会 員

- ・チヨダウテ株式会社
代表者：平田 晴久
所在地：三重県三重郡川越町高松 928 番地

学術会員

- ・元結正次郎 氏 東京工業大学
環境・社会理工学院 教授
- ・吉敷 祥一 氏 東京工業大学
科学技術創成研究院 准教授
- ・金子 健作 氏 東京工業大学
環境・社会理工学院 助教

CBRD News Letter 30 号

発行日：2017 年 3 月 31 日
編 集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会
発 行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海 1-8-12 トリトンスクエア Z 棟 4 階
TEL：03-6219-7127 FAX：03-5560-8022
E-mail：conso@conso.jp(代表) Home Page：http://www.conso.jp/